KIORITZ

共立エンジン

GE4301MI　iスタート

取 扱 説 明 書

見出し	ページ
重要なお知らせ	2
⚠ 安全にご使用いただくために	3～6
1．各部の名称と機能	7
2．作業前の準備	8～9
3．エンジンの運転	10～11
4．点検・整備	12～16
5．仕様	17
6．補用品と消耗品	17
索　引	18

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

重要なお知らせ

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

●製品の使用目的

・この製品は溝切機用２サイクルエンジンです。指定した溝切機以外に搭載したり、エンジン単体で使用してはいけません。

●製品の使用者について

・この製品は取扱説明書をよく読んで充分に熟知した人が使用してください。また、溝切機の取扱説明書もよく読んでください。

・取扱説明書をよく読んでいない人、風邪や疲労など体調のよくない人、１６歳未満の人は製品を使用しないでください。

●取扱説明書について

・本書には、製品の操作、整備に必要な事項が書かれています。よく読んで理解してください。

・本書はいつでも読めるように必ず保管してください。

・本書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。

●製品の貸与、譲渡

・本書で解説している製品を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに製品を貸与してください。製品を譲渡される場合は、本書を製品に添付してお渡しください。

●お問い合わせ先

・この製品についての内容や消耗品のご購入、修理などのご用命はお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。

●おことわり

・本書の内容は、製品の改良のため予告なしに変更することがあります。また、使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。

・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら販売店にご相談ください。

●製品の特徴

・ この製品はエンジン始動時に*iスタート*方式を採用していますので、スタータグリップを引いたときに大変軽く引くことができます。

目　　次

⚠安全にご使用いただくために 3
■警告表示 3
■その他の表示 3
■シンボルマーク 3
■警告表示ラベル 3
■一般的なご注意 4
■燃料およびエンジン取扱い上のご注意 5
１．各部の名称と機能 7
２．作業前の準備 8
３．エンジンの運転 10
3-1　エンジンの始動 10
3-2　エンジンの停止 11
４．点検・整備 12
4-1　点検・整備の目安 12
4-2　点検・整備要領 12
4-3　キャブレタの調整 14
4-4　故障診断表 15
4-5　長期保管（３０日以上）..... 16
５．仕様 17
６．補用品と消耗品 17
索　引 18

⚠ 安全にご使用いただくために

製品をご使用になる前に、この章を必ずお読みください。

■警告表示

本書や製品では作業者などが人身事故を負う危険性のある事柄を、下記の警告表示で示しています。
安全作業のためによく読んで、必ず守ってください。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

■その他の表示

本書では警告表示以外に下記の表示を使って説明しています。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

■シンボルマーク

本書と製品ではシンボルマークを使って説明しています。各シンボルマークの意味を充分に理解してください。

シンボルマーク	シンボルマークの意味	シンボルマーク	シンボルマークの意味
	ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること。		電気ショックに注意すること。
	製品を通気の悪い場所では使用しないこと。		高温部に注意すること。
	火災に注意すること。		

■警告表示ラベル

- 本書で解説されている製品には、下図の「警告表示」のラベルが貼ってあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、７ページに指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



部品番号：890157-55630



部品番号：890016-06411

⚠ 安全にご使用いただくために

・ここに記載されている「注意事項」は、安全に関する重要な項目です。必ず守ってください。
・本文の中にも重要な「注意事項」を記載していますので、必ずお読みください。
☆印に続く文章は、「注意事項」を守らないと起こり得る結果を示しています。

■一般的なご注意

⚠ 警　告

●取扱説明書

- **ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。**

☆事故や重傷を負う原因となります。



●製品の使用目的以外の使用禁止

- **製品を取扱説明書に記載されている使用目的以外の用途に使用してはいけません。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の使用者

次の項目に該当する人は製品を使用しないでください。

- **疲労している人**
- **酒を飲んでいる人**
- **薬物を服用している人**
- **妊娠している人**
- **体調不良の人**
- **取扱説明書を読んでいない人**
- **１６歳未満の人**

☆事故の原因となります。



●製品の改造禁止

- **製品を改造してはいけません。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●点検・整備をしていない製品の使用禁止

- **点検・整備をしていない製品を使用してはいけません。定期的な点検・整備を必ず行なってください。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の貸与、譲渡

- **製品を貸すときは借りる人に、取扱説明書と共に製品を貸してください。**
- **製品を譲る場合は取扱説明書を添付して製品を渡してください。**

☆事故や重傷を負う原因となります。

●製品の使用環境・作業環境

- **夜間や視界が悪く暗い場所などでは製品を操作しないでください。**

☆誤った操作により、重傷を負う原因となります。

●健康管理

- **健康管理のために、休憩を取りながら余裕を持って作業してください。**
- **厚生労働省の通達は次のとおりです。**
  １日の使用時間：２時間以内
  １回の連続作業時間：３０分以内
  １回の連続作業後の休止時間：５分以上

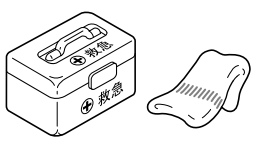
☆健康障害を受ける恐れがあります。

●ケガへの備え

万一の事故やケガへの準備をしてください。

- **救急箱（応急手当用）**
- **タオルやてぬぐい（止血用）**
- **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

☆緊急の応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。





⚠ 安全にご使用いただくために

■燃料およびエンジン取扱い上のご注意

燃料は「混合燃料」です。

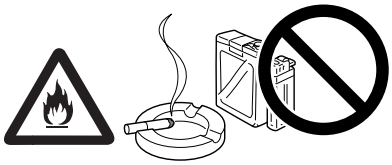
⚠ 危　険

●燃料給油時は火気厳禁

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。次の項目を必ず守ってください。

- **燃料給油中にタバコを吸ったり、火花を近づけない**
- **エンジンが熱いときやエンジン運転中は、燃料補給をしない**

☆燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



⚠ 警　告

●静電気は火災の原因

ガソリンは容器内部で揺られると、静電気を帯びやすい性質を持っています。給油時の放電による火災を防ぐため、次の項目を守ってください。

- **運搬に用いた鋼板製のガソリン携行缶は、地面に置いて静電気を逃がす。**
- **ポリミックス（別売品）で燃料を混合した後は、数分間静置して静電気のレベルを下げる。**
- **作業者は、給油前に手のひらを地面や金属などに押し当てて、自身の静電気を逃がす。**
- **製品は、停止のまま充分に冷えた状態になるまで地面に置き、静電気のレベルを下げる。**
- **燃料給油時に、金属製の漏斗（ろうと）を使用しない。**
- **湿度の低いときは、燃料容器や製品の燃料タンクを乾いた布で拭かない。**

☆静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

●こぼれた燃料は火災の原因

燃料給油時は、次の項目を守ってください。

- **燃料は燃料タンクの口元まで入れずに、規定レベル（燃料タンクの肩口）以下に補給**
- **燃料を入れすぎてあふれたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取る**
- **燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付ける**

☆こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。



●燃料漏れは火災の原因

- **燃料補給後に、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。**
- **燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

☆燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。

●ポリ容器での燃料運搬・保管は禁止

燃料はできるだけ使い切ってください。燃料を運搬あるいは保管する場合は、次の項目を守ってください。

- **鋼板製のガソリン携行缶で運搬・保管**
- **保管期間は１ヶ月程度**
- **ポリ容器やペットボトルに燃料を入れて運搬・保管することは禁止**

☆ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。



● 発火・発煙には、まず安全確保

- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。**

☆あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

●燃料を入れたまま車での移動は禁止

- **車で運搬する場合は燃料タンクをカラにして、製品が動かないようにしっかり固定してください。**

☆燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

⚠ 安全にご使用いただくために

■燃料およびエンジン取扱い上のご注意

⚠ 警　告

●燃料補給地でのエンジン始動禁止

- **燃料を補給した場所でエンジンを始動してはいけません。エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**

☆燃料補給時の漏れた燃料に引火し火災の原因となります。

●エンジン始動時

エンジンを始動するときは、特に次の項目を守ってください。

- **ボルトやナット類にゆるみがないことを確認**
- **燃料が漏れていないか確認**
- **製品を平坦で通気のよい場所に置く**
- **周囲は広くとり、人や動物を近づけない**
- **スロットルレバーは低速位置で始動**
- **製品をしっかりと押え始動操作**

☆始動前の注意を怠ると、事故や重傷を負う原因となります。

●始動後は異常振動・異常音の確認

- **エンジンを始動したら、異常振動･異常音が発生していないか確認してください。**
  異常振動･異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。

☆部品の脱落、飛散などの事故により、重傷を負う原因となります。

●運転中は高温部、高電圧部に接触禁止

製品の運転中および停止後しばらくの間は、次の高温部や高電圧部に触らないでください。

- **マフラ、スパークプラグなどの高温部**

☆高温部に触れると火傷します。

- **スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部**

☆運転中に高電圧部に触れると感電します。





●マフラのゴミは取除く

エンジンのマフラ周辺に覆い被さった草や葉、ゴミなどは、エンジンを停止し、高温部に注意して取除いてください。

☆火災の原因となります。



●排気ガスは有毒

- **エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。**
- **屋内やビニールハウスなど通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**

☆排気ガスによる中毒事故の原因となります。



●点検・整備時はエンジン停止

作業後に製品の点検・整備を行なう場合は次の項目を守ってください。

- **エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点検・整備**

☆火傷を負う原因となります。

- **スパークプラグキャップを外して点検・整備**

☆突然の始動により事故を起こすことがあります。



●リコイルスタータの分解禁止

- **リコイルスタータには強力なスプリングが組み込まれていますので、分解してはいけません。**

☆スプリングがはじけて事故や重傷を負う原因となります。

●スパークプラグの点検

スパークプラグの点検では次の項目を守ってください。

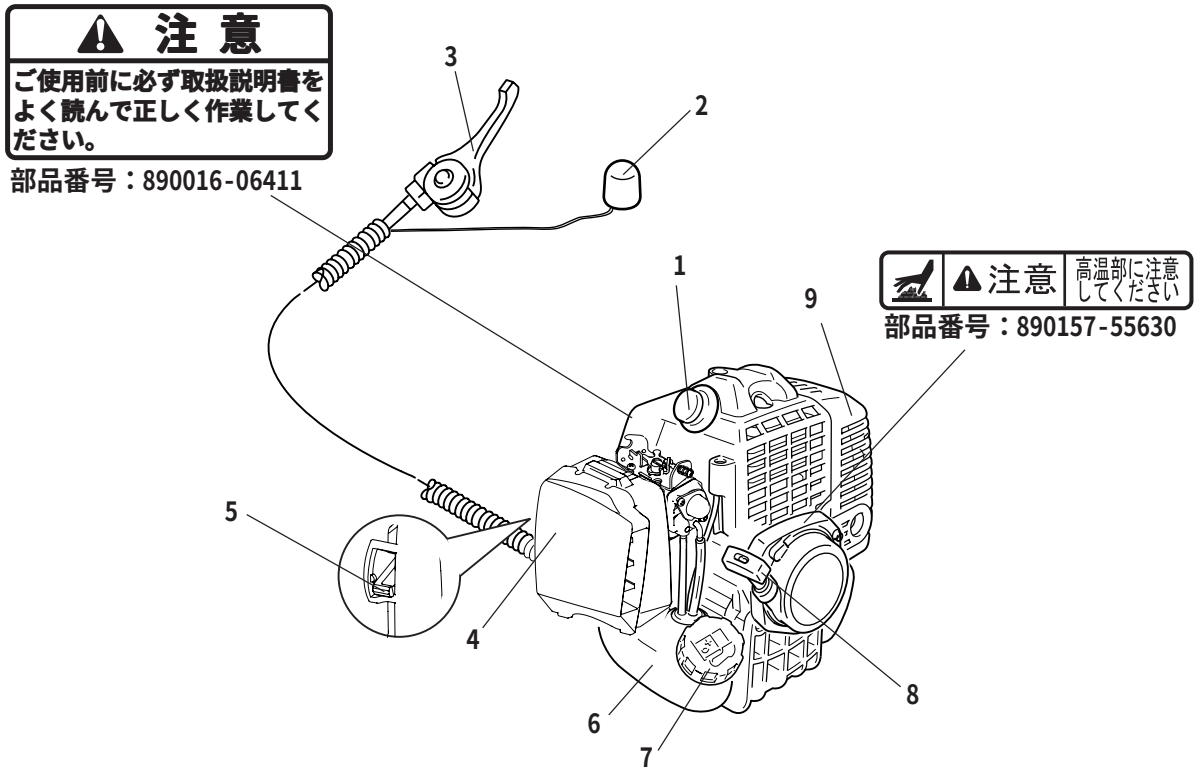
- **電極やターミナルの摩耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換**
- **スパークプラグの火花を確認する発火テストは熟練者以外の人は禁止、販売店に依頼**
- **シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止**
- **燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場合での発火テストは禁止**
- **スパークプラグの金属部に触れることは禁止**

☆引火による火災および感電事故の原因となります。





１．各部の名称と機能



１．スパークプラグ　―エンジンの頭部に組付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。

２．ストップスイッチ　―エンジンを停止するときのスイッチです。

３．スロットルレバー　―エンジン回転数を調節するためのレバーです。

４．エアクリーナ　―エンジンに供給される空気をきれいにします。

５．チョークレバー　―冷えているエンジンの始動時に、燃料と空気の混合比を調整します。

６．燃料タンク　―燃料を入れる容器です。

７．燃料タンクキャップ　―燃料タンクを密閉するふたです。

８．スタータグリップ　―エンジンを始動するときに使用します。スタート

９．マフラカバー　―消音器（マフラ）をカバーし、熱いマフラに触れるのを防ぎます。

２．作業前の準備

⚠ 危　険

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。
本書の「安全にご使用いただくために」（５～６ページ）記載の「注意事項」をよく読み、必ず守ってください。
☆燃料に引火して、火傷や火災を起こすことになります。



⚠ 警　告

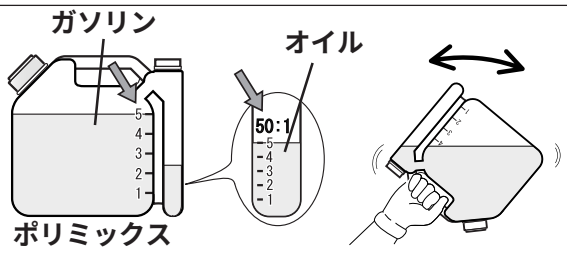
- **燃料を補給する際は手動式の燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼさないように注意して補給してください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
  製品に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。
- **燃料を補給する際は静電気の火花放電を避けるため、補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気をアースしてください。**
  また、作業者自身も手のひらを地面や金属に接するなどしてアースしてください。
- **燃料を補給した後は燃料タンクキャップを確実に締付け、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

☆燃料に引火して、火傷や火災を起こす原因となります。

重　要

混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。 燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。

■ 燃料



２サイクルエンジンオイルの種類と混合比

ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
2	**４０**	８０
4	**８０**	１６０
5	**１００**	２００

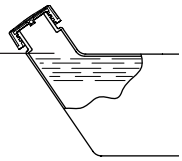
- 燃料はレギュラーガソリン（**アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます**）と、２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。
- ２サイクルエンジンオイルはＪＡＳＯ 性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」はＪＡＳＯ の旧規格で定められていました。共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。
- ２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。

ＦＣ・ＦＤ　　；［５０：１］
ＦＡ・ＦＢ　　；［２５：１］

２．作業前の準備

■ 燃料補給

燃料タンクの肩口



燃料は燃料タンクの肩口より上まで補給しないこと

- **燃料の補給作業は、必ず風通しの良い所で行なってください。**
- **燃料の補給作業は、製品と補給用タンクを地面に置いて行なってください。トラックの荷台の上などでは行なわないでください。**

- **燃料は必ず燃料タンクの肩口以下に補給してください。**
- **燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。**
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- **燃料タンクのキャップを開け､手動式の燃料補給ポンプなどでこぼさないように混合燃料を入れてください｡（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
- **燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください｡ただし湿度が低いときは､乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。**

- **エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。**

- **補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。**

３．エンジンの運転

３－１　エンジンの始動

⚠ 警　告

エンジンを始動する場合は、本書の「安全にご使用いただくために」（3～6ページ）記載の「注意事項」を守って正しく操作してください。

☆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

⚠ 注　意

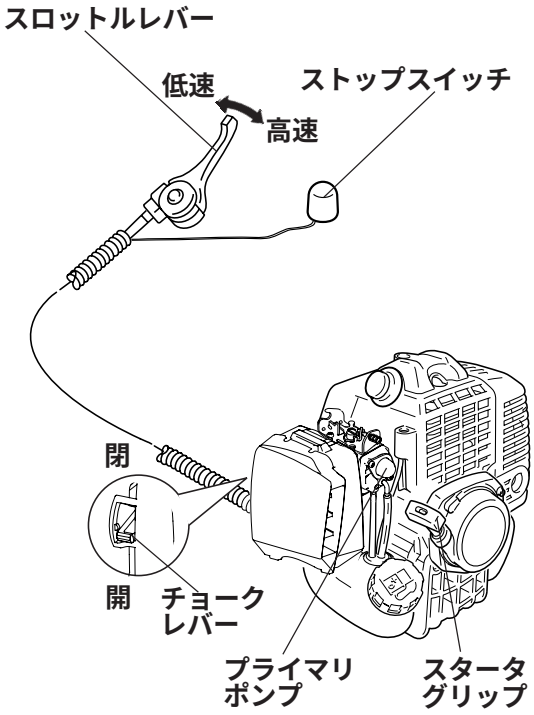
- **エンジンの始動時、スロットルレバーを低速の位置にしておいても、駆動軸が動く場合にはキャブレタを調整して使用してください。（１４ページ参照）**
- **スタータグリップを引いてから、遅れてエンジンが始動することがあるので、注意してください。**

☆駆動軸が動いてケガをする恐れがあります。

重　要

- スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引きヒモの２／３以上は引出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。
- エンジン始動操作のときに 最初の爆発音が聞こえたら、チョークレバーを戻して再度スタータグリップを引くと始動します。最初の爆発音を聞き逃さないようにしてください。

■ 冷えたエンジンの始動



（長期保管の後はスパークプラグキャップを接続してください。）

エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。

冷えたエンジンの始動は次のようにしてください。

1. 燃料が漏れていないことを確認します。
2. チョークレバーを閉の位置にします。
3. プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）

※ 購入後初めて使用する場合または長期保管後最初に使用するときは、上記の目安回数にかかわらずプライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプの操作は続けてください。

4. 周囲の安全を確認して、スタータグリップを数回引いてください。
5. 爆発音がし、すぐに止まった場合は、チョークレバーを開へ戻して、更にスタータグリップを引き始動させてください。
6. 上記4.の操作ですぐにエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に開に戻してください。
7. 低速のままでしばらく暖機運転をしてください。
8. 作業を開始するときは、スロットルレバーを高速側に動かし、作業に合わせて回転数を調節してください。

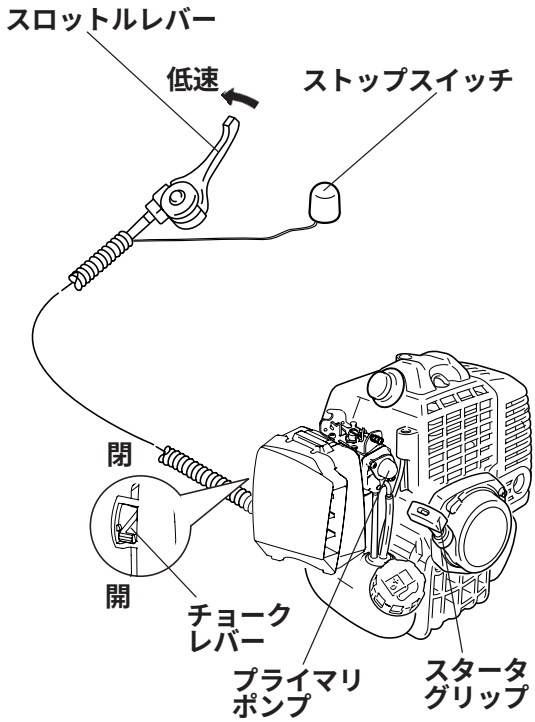
３．エンジンの運転

３-１　エンジンの始動（続き）

■ エンジンの暖機運転

1. エンジンが始動したら、２～３分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転を行ないます。
2. 暖機運転は､エンジン内部の潤滑を円滑にします。特に冷えているときは、充分に行ないます。

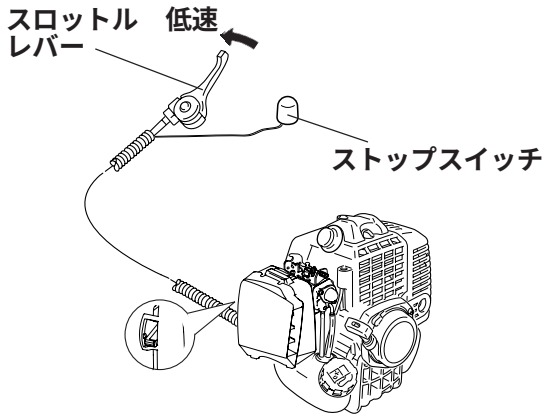
■ 暖まっているエンジンの始動



1. スロットルレバーを低速の位置にします。
2. チョークレバーが開の位置にあることを確認してください。
3. 燃料タンクがカラでなければ､スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。
4. 燃料がプライマリポンプ内に見えないときは、プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）
5. 周囲の安全を確認して､スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。

３-２　エンジンの停止

■ エンジンの停止



1. **スロットルレバーを低速の位置にし､エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。**
2. エンジンが停止するまでストップスイッチを押してください。
3. 緊急の場合は､直ちにストップスイッチを押してエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは､チョークレバーを閉の位置にしてください｡エンジンは失速し停止します。（応急停止）

※ ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

4．点検・整備

4 - 1　点検・整備の目安

・お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために､定期的に点検･整備を行なってください。
・点検・整備は、充分な広さがあり安定した場所で行なってください。
・タバコ、その他の火気は厳禁です。
・ここに示した整備の時間的間隔は､最長時間です｡実際の作業や､今までの実績から判断して必要な整備間隔／頻度を決定してください。

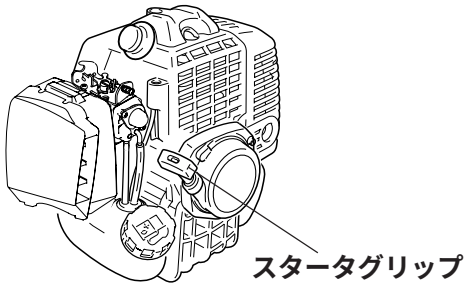
整備箇所	整　備	掲載ページ	使用前	毎　月
エアフィルタ	清掃／交換	12	●	
燃料フィルタ	清掃／交換	13	●	
スパークプラグ	点検／清掃／交換	13		●
キャブレタ	調整	14		●
冷却装置	点検／清掃	13	●	
マフラ	点検／清掃	14	●	
スクリュ、ボルト、ナット	点検、増し締め／交換	-	●	

4 - 2　点検・整備要領

重　要

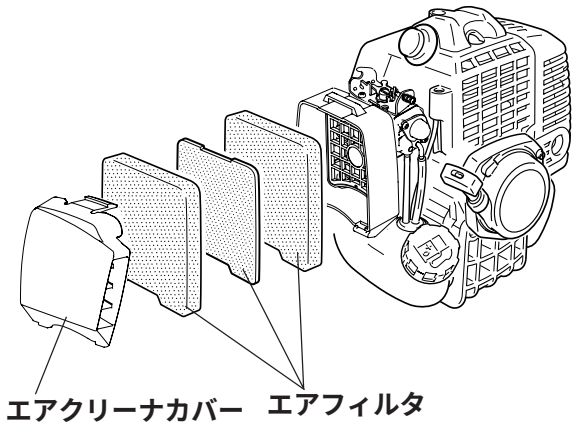
・エアフィルタが非常に汚れていたり､破損している場合は交換してください。
・エンジン冷却風の入口や､シリンダフィンにゴミなどが詰まりますと､エンジン焼き付きの原因となります。

■ リコイルスタータの点検　（分解禁止）



・スタータグリップが軽く引けない場合は故障ですので､分解せずにお買い求めの販売店へご相談ください。

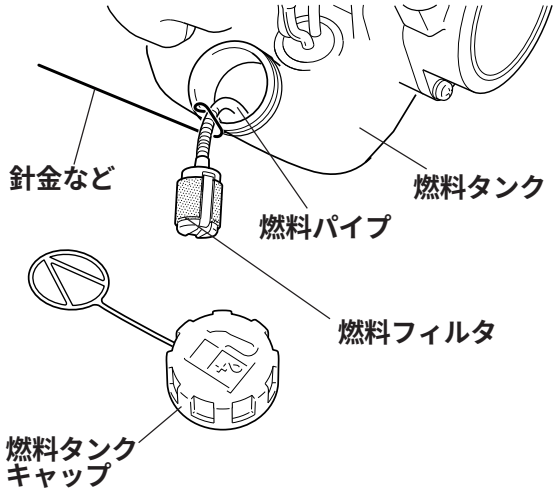
■ エアフィルタの清掃



ご使用前に点検し清掃してください。
1．チョークレバーを閉の位置にしてから、エアクリーナカバーを外してください。
2．エアフィルタを取外してください。
3．汚れをブラシで落とすか､中性洗剤で洗ってください｡洗剤を使用した場合は､充分に水洗いをし､よく乾かしてください。
4．エアフィルタを元の位置に取付けてください。
5．エアクリーナカバーを取付けてください。

４－２　点検・整備要領（続き）

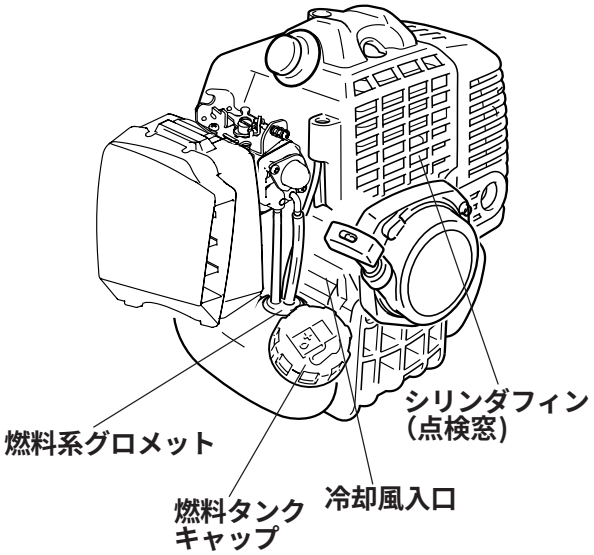
■ 燃料フィルタの清掃



ご使用前に点検し清掃してください。

1．燃料タンクキャップを外してください。
2．針金などを使用して､燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取出してください。
3．燃料が劣化していたり､水分やゴミが混入している場合には、燃料を交換してください。
4．上記3.の場合にはタンク内や燃料フィルタ、燃料パイプも洗浄します。
5．燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
6．燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
7．点検・交換後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。

■ 燃料系統の点検・冷却風入口の清掃



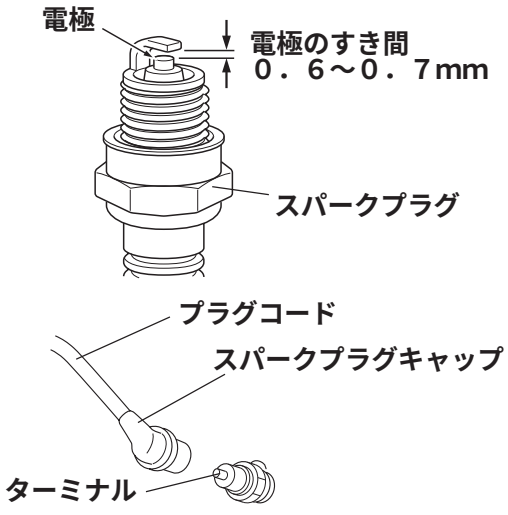
ご使用前に点検し清掃してください。

1．ご使用前に燃料を補給した後、燃料タンクキャップを確実に締付け､燃料パイプ､燃料系グロメット､燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
2．燃料の漏れ､にじみがある場合は､火災の原因となりますので､直ちに使用を中止し､お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

ご使用前に点検し清掃してください。

1．シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。
2．エンジンの底部と燃料タンクの間にある冷却風の入口の周りに付いた､ゴミなどを取除いてください。

■ スパークプラグ関連の点検



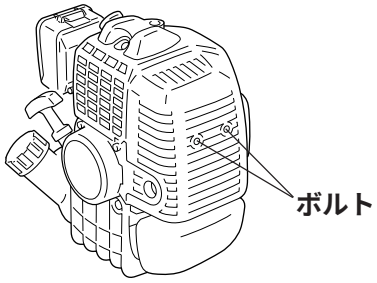
１ヶ月毎に点検してください。

1．付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
2．電極やターミナルが摩耗しているとき､すき間が規定寸法（０．６～０．７mm)でないとき、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新品と交換してください。
3．スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
参考：締付けトルクは１５～１７N・m
(１５０～１７０kgf・㎝)です。
4．スパークプラグキャップの接続に異常がないか､プラグコードやスパークプラグキャップにヒビ割れ､ピンホールなどがないかを点検します。

4．点検・整備

4 - 2　点検・整備要領（続き）

■ マフラの点検



ご使用前に点検し清掃してください。
- マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、増し締めをしてください。
- マフラがカーボンなどで汚れている場合には、清掃してください。

4 - 3　キャブレタの調整

■ キャブレタの調整

重　要

- 工場出荷時にキャブレタはエンジンの性能を最も良く引出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの異常も考えられますので調整をしてください。
  1)エンジンが始動しない。2)回転が持続せず停止する。3)アイドリング（低速運転）時も駆動軸が動いている。
- アイドル調整ネジは締めすぎないこと。強く締めすぎるとキャブレタを破損します。



キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

● アイドル調整ネジ

1．アイドリング（低速運転）の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のアイドル調整ネジを回して調整してください。
2．アイドル調整ネジを右に回して駆動軸が動きはじめるところから$^{1}/_{2}$回転程度戻してください。

※　調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

4．点検・整備

4 - 4　故障診断表

故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しない		燃料が入っていない 燃料の吸込みすぎ 電気的障害 キャブレタ不良、内部固着 エンジン内部の故障	燃料補給 整備後に始動操作 販売店へ依頼 販売店へ依頼 販売店へ依頼
エンジンが始動しにくい また回転が変動する	プライマリポンプ内に燃料が吸い上がる	燃料の変質 キャブレタ不良	新しい燃料と交換 販売店へ依頼
	プライマリポンプ内に燃料が吸い上がらない	フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタ内部の固着	清掃か交換 販売店へ依頼 販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	燃料の変質 電極の隙間が正しくない カーボンが付着している 電気的障害	交換 交換 交換 販売店へ依頼
エンジンは始動するが加速できない		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタ調整不良 排気口・マフラ出口が詰まっている	清掃か交換 清掃か交換 販売店へ依頼 調整 清掃
エンジンが停止する		キャブレタ調整不良 電気的障害	調整 販売店へ依頼
エンジンが停止しない		ストップスイッチ不良	応急停止後、販売店へ
アイドリング状態で駆動軸が動く		キャブレタ調整不良 クラッチバネ破損	調整 販売店へ依頼

・点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
・表中に記載されていない故障の場合など、ご不明の点はお買い求めの販売店にご相談ください。
・補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。

4．点検・整備

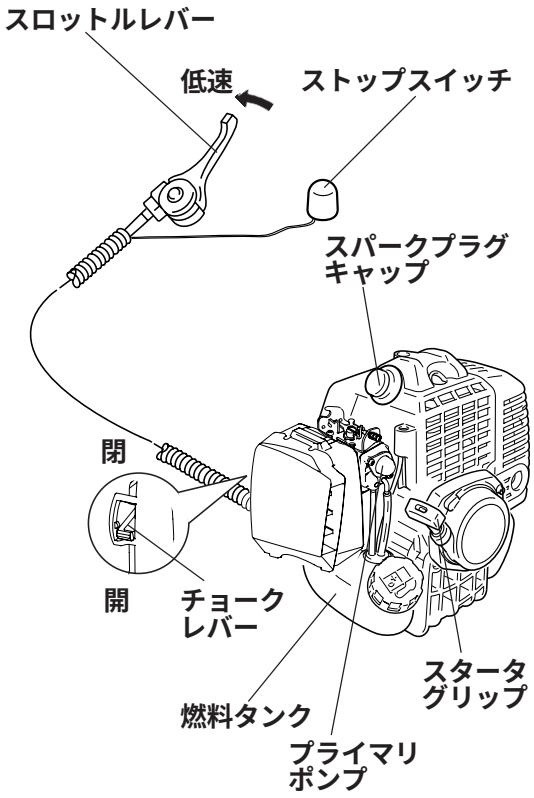
4 - 5　長期保管(３０日以上)

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないこと。

☆火災の原因となります。





製品を長期間（３０日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1．燃料タンクを完全にカラにしてください。
   A. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
   B. プライマリポンプを押す・離すの操作を数回くり返して、プライマリポンプの燃料を抜きます。
   C. エンジンを始動し、自然に停止するまで低速で運転してください。
2．製品の外側に付いたオイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
3．本書に定められた定期的な点検をしてください。
4．スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
5．スパークプラグを外し、その取付穴から適量（１０ｍＬ程度）の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
   A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
   B. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
6．スパークプラグを取付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないでください。）
7．製品が充分冷えて乾いてから、エンジン部をビニール袋などに包み、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

●製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

5．仕様

項　　目	単　位	型　　式
		GE4301MI
質量　（燃料除く）	kg	４．６
容量 　燃料タンク	L	１．０
駆動軸回転方向 （出力軸から見る）		反時計方向
外形寸法 　長さ×幅×高さ	cm	２２ × ２８ × ２７
エンジン 　形式 　排気量 　最大出力時エンジン回転数 　アイドリング回転数 　キャブレタ形式 　点火方式 　スパークプラグ 始動方式 　動力伝達方式	 mL r/min r/min	 空冷２サイクル単シリンダ ４２．７ ７，５００ ２，５００ タイヤフラム式 フライホイールマグネト電子点火方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ａ リコイルスタータ　iスタート 自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・ＦＣ、ＦＤ　　;[５０：１] ・ＦＡ、ＦＢ　　;[２５：１]
最大エンジン出力時燃料消費量	L/h	１．２５

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

6．補用品と消耗品

部 品 名 称	部　品　番　号	備　　考
スパークプラグ	１５９０１０－１０６３０	ＢＰＭ７Ａ
エアフィルタ（スポンジ）	Ａ２２６-０００３００	使用個数：２
エアフィルタ（フェルト）	Ａ２２６-０００３１０	
燃料フィルタ	１３１２０５-１９８３０	
燃料タンクキャップ	１３１００４-５５５３０	
ポリミックス	Ｂ２０２－０００１５００	５Ｌ
ポリミックス	Ｂ２０２－０００００２００	２Ｌ
５０：１ 2サイクル専用オイル	Ｂ１０５－０１０１００３	１Ｌ
５０：１ 2サイクル専用オイル	Ｂ１０５－０１００４０３	４００ｍＬ

・ご購入の際は製品をお買い求めの販売店にご用命ください。
・補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。
・作業内容と用途および仕様・規格により、本製品への適合性を確認し、お買い求めの販売店と相談の上、ご購入、ご利用願います。

索　引

あ行

アイドリング …… 11
エアクリーナカバー …… 12
エアフィルタ …… 12

か行

キャブレタ …… 14
警告表示 …… 3
高温部 …… 6
高電圧部 …… 6
混合燃料 …… 8

さ行

JASO 性能分類 …… 8
シンボルマーク …… 3
スタータグリップ …… 10,11,12
ストップスイッチ …… 10,11,16
スパークプラグ …… 6,13,16
スロットルレバー …… 7,10,11
静電気 …… 5,8,9

た行

暖気運転 …… 10,11
チョークレバー …… 10,11
2 サイクルエンジンオイル …… 8,16
アイドル調整ネジ …… 14
電極のすき間 …… 13

な行

燃料 …… 5,6,8,16
燃料給油 …… 5
燃料系グロメット …… 5,13
燃料タンク …… 5,7,8,13
燃料タンクキャップ …… 5,7,13
燃料パイプ …… 5,13
燃料フィルタ …… 13
燃料補給ポンプ …… 8

は行

排気ガス …… 6
発火テスト …… 6
引きヒモ …… 10
プライマリポンプ …… 10,11,16
プラグ孔 …… 6
プラグコード …… 6,13
補給用タンク …… 8
ポリミックス …… 8

ま行

マフラ …… 14
マフラカバー …… 7

ら行

リコイルスタータ …… 6,12
冷却風入口 …… 13

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-009　11 2
X750 216-2602
0801Kn 0167 ES

© 2006 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。